

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社ケアカンパニー		
事業所名	グループホームゆかい		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡12245番地6		
自己評価作成日	平成23年5月9日	評価結果市町村受理日	平成23年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年5月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・より良いサービスを提供し、ご利用者、ご家族に、ここでよかったなど満足安心していただけるように、サービスの質の向上に向け真剣に考えております。サービス向上への具体的考え方としてスタッフ1人1人が仕事に対し自信を持ち、満足して仕事ができるよう、専門職としての知識、技術、態度を身に付けるよう、積極的に研修の参加、施設内での勉強会の実施に努めスタッフ1人1人が実践者となれるように努めています。・利用者さまの心身の状態を把握し体調変化の早期発見に努め、医療機関への迅速な連絡体制がとれており、Drによる早期の対処ができるようにマニュアルができており全スタッフを理解している

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

南側の部屋からは、麦畑が広がる風景が見られ、歩いて買い物に行けるところがあり、畑も近くに用意されていたりして、生活の楽しみが広げられる環境がある。また、医療機関との連携に力を入れられているが、新しい市民病院が近くに移転されるため、更なる充実が期待される。サービス向上を図るため、会議の機会にテーマを決めた学習をされたり、研修にも力を入れている。こじんまりとした規模がより家庭的な雰囲気を作り、一人ひとりを大切にケアの実践に努められている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆかいの運営理念を明確にし、質の向上に努めるため、毎月1回のケース会議、毎朝のミーティング、申し送り等の実施を行っている。理念のスタッフ間の共有を計る為に毎朝の朝礼で音読している。	理念には、サービスのポイントがわかり易く表現されており、いつも目に触れるところに掲示してあるとともに、毎月のミーティング等で照らし合わせながらの検討がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやクリスマス会に他施設と共同で地域の方にも声かけし、一緒に楽しんでいただくようにしている。外出時、近隣の方と気軽に挨拶や会話ができる。	近所に買い物に出かけたりして、顔見知りの方との交流がある。他の施設と共同で食事会やクリスマス会、餅つき等を開催し、餅を配ったりして地域の方たちとお付き合いをされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他施設との合同での行事の場をかりて、ボランティアの方や他の家族方々との交流を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5～6回会議を開き報告し、意見交換の場を設け、会議での意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催されており、家族、区長、行政からの参加もあり、出された意見の反映に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターに参加していただく中で意見、協力を頂くようにしている。	市の担当者と連携を図り、ホームの空き情報等も伝えることで、入居者の紹介をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを基本原則としている。拘束せざるを得ないケースについては、家族の同意を得た上でカンファレンスを行い、勉強、周知を図り対応している。	身体拘束について、意識を高めるための話し合いをされている。やむを得ないケースについても、必要性や他の方法について十分な検討がなされているが、書類の整備が遅れている。	家族の同意書、取り組みの経過記録等の整備をすることで、更なる充実を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で取り上げ、防止に努めている。介護の場面で職員間で虐待に当たらないか検討しながら対応している。(長時間車椅子に座位で過ごす→ソファへ移乗)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については、プラン作成より検討し、スタッフはプランに沿って支援している。成年後見制度については、利用発生時、説明しスタッフが理解して対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時や改定の際は書面にて揭示し、重要事項の説明を行い、ホームで対応できる範囲を説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時にはお茶を出すなど話しやすい雰囲気作りを心掛けている	利用料を家族に持参してもらい、話をする機会を作っている。また、訪問の際の持ち込み品を記入する用紙に、意見・要望を書く欄も設けて、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議の場で職員の意見、業務内容の改善点、など積極的に取り入れてます。	定例のミーティング、会議の際や、申し送りノート等を通じて、運営に関する意見の反映がなされている。勤務日の調整や、休憩についての意見の反映が具体的に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のトラブルや意見の食い違いなどの問題が発生した場合、代表者が職員個々の面談を行い、問題の解決に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの情報提供をスタッフにし、気軽に利用してもらえるようにしている。また研修会で学んで自施設で活かしたい事など明確にするように研修報告書に記録するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や訪問等の交流は行っていないが、外部研修に参加する機会を通して同業者と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を少しでも取り除くことが出来るように傾聴の姿勢をとるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を設け関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談の機会を設けホームで提供できるサービスが要望に沿えるものかどうかの説明を含めた対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃や洗濯物干し、調理、買い物を一緒に行っており、時には職員が調理法や花の名前、栽培法を教えてもらう機会等がある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の利用料金を家族様に出向いてお支払して頂き、利用者様本人に会う機会を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にドライブに出向いたりし、利用者希望の場所に行く事もある。親戚などと、電話でコミュニケーションをはかったりして頂く事もある。利用者の馴染みの人と交流したいなどの意見を尊重している。	知り合いの方の訪問もあり、希望に応じて、馴染みの場所への散歩やドライブ、買い物等に行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように状態にあわせて食卓の配置換えをしている。利用者同士の会話の受け渡しを行っているが訴えの少ない利用者が孤立しがちになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時いつでも気軽に遊びに来てくださいなどの声かけを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の訴えや考え、行動を熟知し、本人の希望があればスタッフ同士で話し合い可能な限り叶えるように努力している。	希望を言われる方も多く、日用品の買い物、食事等、行きたい所に同行をされている。希望を言われたい方に対しても、想いをくみ取るための話し合いをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族との面談を行い、本人の生活歴、趣味など詳しく把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今現状の状態で本人が出来る事をその都度スタッフが見つけ、今後どのように過ごしたいかの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく生活して頂く為に、適切な課題をケアマネージャーと考察し、利用者、ご家族の意見も取り入れ介護計画書を作成している。	家族の意向を聞かれて介護計画を作成され、一人ひとりの担当を決めて、サービスの確認、評価表の書き込みをして、モニタリングをされている。また、病院へは申し送り文書で職員の気づきを伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にケアの実践・結果、気づきを記録している。毎日申し送りを行っており連絡ノートに記入している。出勤時には連絡ノートやケース記録を確認し情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が畑仕事をしたいや買い物に行きたいなどの要望があればスタッフ同士で話し合い時間を作るようにして出来るだけ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回避難訓練を実施しており、消防の協力を得ている。また民生委員、市の職員とは、情報の交換ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月二度、定期受診をしており、密な関係が築けている。利用者の状態変化があった場合早期発見に努め早急に医療機関に報告している。	月に2回の定期的な往診がある他、かかりつけ医への受診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が疑問に思った事などはまず看護職に聞くようにしている。受診時には各個人の状態や病状が担当の医師にわかるよう詳しく記録し医師に提示している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には支援方法に関する情報を医療機関に提供し、面会に行ったり電話連絡を通し情報を得ている。退院後のホームでの生活が安心、安全に行えるよう医師や看護職より助言を頂いたり、サマリーを通して情報を得ることができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の体制がとれている、医師、本人、ご家族と、話し合い、適切な方針を決めている。我々は、その情報を共有しており、サポートしている。	重度化した場合には、医療機関につなぐことを、入居の際に説明されている。入院に際しても、病院と連携を取りながら対応の相談をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	場合によっては、医師による、往診の協力も頂いている。急変された場合、緊急体制の流れで、対処する。医療行為はできないが、やむおえない場合医師の指示に従い、行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定しての避難訓練は行っているが、地震、水害を想定しての訓練はできていない。	スプリンクラー、通報装置を設置し、出火場所を変えながら、夜間を想定した火災時の避難訓練をされている。緊急時の通報文例を電話の横に貼る等の工夫をされているが、他の災害への対応がまだ準備されていない。	地震、風水害への対応を期待するとともに、訓練時に近所の人の協力を仰ぐ取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあり、日頃から、心がけている。	理念に基き、居室に入る時のノックや、トイレや浴室での対応等に配慮をされている。また、記録や個人情報の管理もきちんとされており、農作業時には、職員が教えてもらう立場で関わられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志は尊重している。料理の希望や、お風呂、行事の行き先、など、様々な面で、利用者の意見を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションを毎日行っているが、利用者の意思確認をし参加して頂いている。すべてにおいて事前に意志の確認を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容を利用しており入所時にしていた髪形に近くなるように代弁をしたり本人が希望を伝えている。外出や行事の時には化粧を勧めている。服は好みのものを選ぶように声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗濯物たたみや食器洗いや食器拭きなど職員が積極的に声かけしお手伝いして頂いている。	家庭料理を心がけ、食べたいものを聞き、献立に反映をされている。食材を一緒に買いに行ったり、見える所での調理があり、食べ終わるまで職員が立たずに、会話を楽しむよう努力をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示に合った食事の量を調整している。お粥や刻み食、ミキサー食、とろみ剤を使用するなどしている。水分は特に夏場は一日に10～9回は水分を摂取する機会を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後かならず口腔ケアを行うようにしている。、できないところは介助を行う。習慣化されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、排泄パターンを把握し、誘導介助し失禁がないように努力している。トイレにて排泄がもっとも気持ちよいと考え、トイレにて排泄するように支援している。	パターンを把握し、トイレに誘導しての排泄を支援されている。自分で出来ることを損なわないような対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各個人の排泄データを記録しており、便秘になった場合は職員が介助するか下剤の使用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助が必要な方がほとんどの為、利用者の希望に完全に添う事ができていない。季節に応じて、入浴の間隔を調節し、希望があれば入浴していただいている。皮膚疾患の方などは間隔をせばめたりしている。	希望を聞き、季節や体調に合わせて回数や方法の調整をし、清潔が保たれるよう支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ、布団や衣類の調節を行い、気持ちよく休んで頂くようにしている。空調管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前と薬の目的を書面ですぐに確認できるようにしている。新しい薬が処方されると、申し送り、情報の共有ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、畑仕事など生活歴を活かし活躍できる場面を作っている。天候により散歩やドライブなどに出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節により行事としての外出や利用者の希望に沿った外食を計画し行っている。	食材の買い物や、衣類、本、おやつ等の買い物も希望を聞きながら同行をされている。希望を言われない方にも、声掛けして誘うようにされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数の方は小額のお金を自己管理しており希望時には買い物をするがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の要望があればするようにしている。年賀状は利用者から一言書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、手作りの、貼り絵や絵などを貼ったりし季節感を出すようにしている。居室とリビングに温度計を置き個人に合わせ調整をしている。、天気の良い日には窓を開け臭いや換気に配慮している。トイレや浴室は車椅子を使用すると狭い	季節の花を飾り、塗り絵や折り紙等をリビングに掲示して雰囲気作りをされている。また、室温や湿度にも気を配り、家庭らしさがある空間作りに努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでレクレーションをみんなで楽しんだり、TVを一緒にみるなどの共同生活を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドも好みのものが用意され、タンス等の持ち込み、写真や作品の飾りもある。ナースコールで、風量、室温の要望にも応じ、居心地よく過ごせるよう配慮をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しており、自立歩行に向け役立っている。バリアフリーの建物となっている。トイレ、誰の居室かすぐわかるように、手作りの看板をドアにはりつけている。		